

タイトル: 寄り添うことの大切さ	事務局使用欄: 301
学校名: 酒田市直第三中学校	氏名: 高橋 由奈

「お互いの言い分をしっかりと聞いて、本人達が納得するようにしたら良いんだ。」私が担当した組で子供達のトラブルがあり、先生に相談したところ、優しくアドバイスをしてくれました。二日間の職場体験で、この出来事が一番印象に残っています。

私は総合学習の職場体験をずっと楽しみにしていました。妹や弟と一緒に遊ぶ、うちで保育士の仕事に興味を持ったため、体験場所は自分もお世話になった浄徳幼稚園に決めました。当日、わくわくした気持ちで浄徳幼稚園に入ると、とても元気な声が聞こえてきました。私を含むセムで先生方に挨拶をし、私が担当する年中のゆり組に入ると、子供達に不思議そうな顔で見つめられ、一気に「子供達に馴染めるだろうか」という不安が押し寄せました。しかし、自己紹介を終えると、子供達が「ゆな先生」と次々に話しかけてくれたとても嬉しかったです。その日、年中組はB&Gプールに行きたいため、私はゆり組のみんなの着替えの手伝いやトイレの付き添いをしました。水着の着方を教えたり、帽子を被せたり、大勢の着替えを手伝うのは大変でしたが、子供達が頼ってくれるのが嬉しくて、幼稚園に来た良かったと思いました。プールが終わって園に帰ると、すぐに給食の時間になりました。中学校では、「飯係やおかず係など」、分担して準備を行っていますが、先生は一人であるという間に人数分の給食を準備してしまったため、私は改められたと驚きました。私がどこでお弁当を食べようかと戸惑っていると、「ゆな先生こっち」と隣に誘ってくれた子がいて、とても嬉しくなりました。給食の片付けをして少し遊んだ後、子供達が帰ると、私達はトイレや水道の掃除を行いました。私が幼稚園に通っていた頃は掃除なんが気にしたことありませんでしたが、子供達が安心して過ごすために、みんなが帰った後も先生達が毎日頑張ってくれていたのだと知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。掃除を終えて少し休憩していると、先生方が人数分の冷えたジュースを持ってきてくれました。保育士の仕事の体験はどれも楽しいものでしたが、初めての事ばかりで疲れていたのが、普段の何倍もジュースが美味しく感じられました。先生が「仕事終わりのジュースは美味しいでしょ？」と仰ったので、慣れていたもやはり疲れはするんだなと思い、それでも仕事を続けられる先生達を尊敬しました。

二日目は、早く子供達に会いたくて、初日も早く幼稚園に向かいました。教室に入ると何人かが集まってきた、手紙や折り紙などのプレゼントをくれました。私はとても嬉しくて、昨日頑張った良かったと、非常にやりがいを感じました。ところが、朝の挨拶として教室で遊んでいる時のこと。「ゆな先生

こっちは来い！」と呼ばれ、その子について行くと、二人の子供がおもちゃをめぐってちょっとした喧嘩になっていたのです。私はどのように声をかけたら良のか分からず、担任の先生と呼びました。先生が二人の話を聞いている間、私は他の子に呼ばれて遊んでいたため、先生がどのように喧嘩を解決したのか分かりませんでした。私は何も出来なかった自分が情けなかつたです。その後も、セタの飾り付けや絵本の読み聞かせなど様々な事を体験しました。子供達が帰る時には、一人一人とハイハイとする時間を取ってくれて、私はとても楽しかった一方、ずっと喧嘩の事が気掛かりでした。そこで、掃除の後、私は思い切って先生方に今日の出来事について相談しました。先生は、「言葉で表せる子とそうでない子がいるから、話をしっかりと聞き出して、無理矢理解決するのではなく、本人達が納得できるようにしたらいいんだよ。」と教えてくれました。私は、どうしたら解決できるかばかりを考え、どのように解決するかまでは気にしていなかった事に気が付きました。先生達はいつでも子供達の事を一番に考えているのだと感じました。トラブルの事も含めて、保育士の仕事は、子供達と同じ目線で楽しんだり、悩んだり、子供達に寄り添うことが何よりも大切だと教えて頂きました。もし妹達が揉めました時は、先生方に教えて頂いた事に気が付けて解決したのです。私は今まで、「働く事」は義務のような大変な事だと思っていましたが、楽しそうに子供達に接する先生方を見て、一人一人が自分に合った、やりがいを感じられる仕事を選んでいるのだと思いました。今回の職場体験で、普段の生活の中でも、多くの人の支えがあってできている事がたくさんあると気付きました。私は将来の夢はまだ決まっていませんが、どんな職業に就いても、先生方のように周りの人に寄り添う事を大切にして、働きたいと思いました。